

## アクティブ電波画像誘導方式の性能確認試験

○菅沼 亘\*      田中 正之\*      海老根 巧\*

### アピールポイント

- 将来のステルス艦船等への対処の研究
- シーカに DBS(Doppler Beam Sharpening)技術を実装した日本初の試み

### 研究のねらい

アクティブ電波画像誘導方式の研究では、将来のステルス艦船等への対処を想定し、高度な信号処理により目標及び海面等からの反射電波を画像化(アクティブ電波画像)し、低速かつ電波反射の弱い目標であっても探索・検知・追尾を可能とする技術の研究を行っている。本発表では、電波による画像化を実環境下で確認するために海上の船舶を目標として実施した CFT(Captive Flight Test)の概要及び結果について紹介する。

### 研究内容

平成 22 年度から平成 24 年度にかけて研究試作した誘導装置 1 型(写真 1)を用いて、アクティブ電波画像生成技術の確認を行うことを目的として、平成 24 年度の性能確認試験では、試験母機の機外に誘導装置 1 型を搭載し(写真 2)、東京都新島村の周辺空海域において海上の船舶を目標としたデータ取得を行い、アクティブ電波画像の生成が確認できた(図)。



写真 1 誘導装置 1 型



写真 2 試験母機への搭載状況

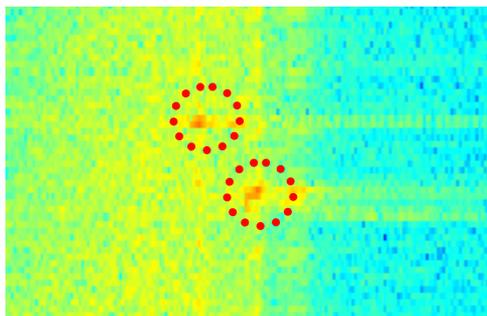


図 生成された電波画像(目標船 2 隻の場合)